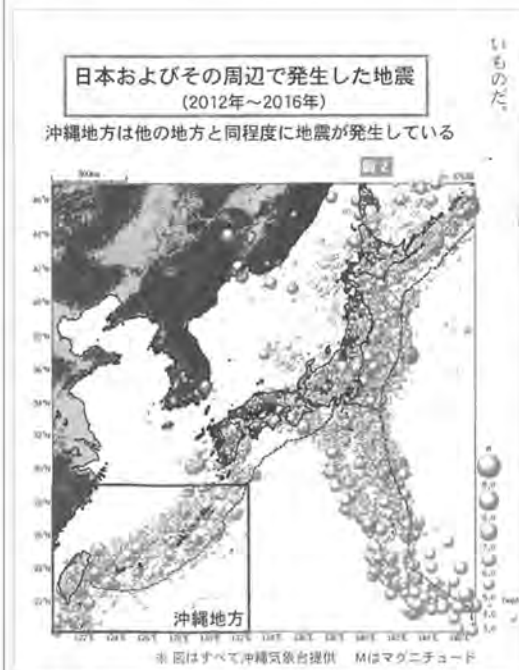


沖縄講座で耐震設計を語る渡辺氏



沖縄地方は他の地域と同程度に地震が発生している  
=3月9日発行、1547号「週刊ほーむぶらざ」より

# より安心の性能設計

## 構造デザインを求めて ⑨

文・福村 俊治 (チームドリーム代表)

「日本は地震国であり、地震の研究や建物の耐震設計が突出して進んでいる」とか「沖縄は日本本土に比べて地震が少ない」と一般的に言われているが、これらは大きな「過ち」で、実はまだ地震のことはよくわかっていない。地震は地球上のどこでも起こる危険性があり、地震発生記録だけで判断するべきではない。事実、日本ではこれまで大きな地震がくるたびに建物の耐震強度の基準が見直されてきたし、地震が無いだろうと思われてきた所で、大きな地震の被害が出ることで繰り返されている。だ

### 地震と耐震設計

から、建物の耐震設計を建築構造技術者のみに頼るのではなく、すべての人々が「耐震」という概念をもつと共有し、地震の起こる原因やこれまでの地震の歴史をもっと深く研究すべきである。

安易に耐震基準を建築法規で定めると、それを基準にして建築の構造設計をしておけば、安全が保証されるという誤解を生んだり、また、大きな地震が起きて建物が壊れても、設計者は法律に基づいて設計してあるので、設計者の責任ではないという免責の根拠となる。大切なことは、耐震基

「この建物は建築基準法の耐震規定に準じて設計している」と伝えると、「それで本当に壊れないのですか？壊れない保証はあるのですか？」と聞かれ、正直に「壊れないという保証も根拠もない」と答えると、「設計者が安心できるといふ設計をしてくれないと困る。追加費用を出すから安心できるものにしてほしい」と言われ、「設計者自身が納得する、より強固な耐震設計をするためにそれまでの構造設計を全面的に見直した」と話した。

つまり、絶対的安全性はこの世にないが、設計者は「建築主に「より安心」を提供する耐震設計をすることが大切で、単に基準に準じる設計をするのではなく、設計者と建築主とが相談して建物の耐震性の「性能」を決め、「より安全、より安心」の建物の耐震設計をすること、つまり、「性能設計」をすることの重要性を訴えた。

毎月第3週に掲載